

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 石見 和世  
学位 博士 (保健学)  
学位記番号 新大院博 (保) 甲第 44 号  
学位授与の日付 令和 4 年 3 月 23 日  
学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当  
博士論文名 性分化疾患を伴う原発性無月経女性のジェンダー・アイデンティティ再構築プロセス

論文審査委員 主査 内山 美枝子  
副査 定方 美恵子  
副査 住吉 智子

博士論文の要旨

性分化疾患 (Disorders of sex development : DSD) とは, 精巣・卵巣, 性器の発育が非典型的な状態であり, 遺伝その他の原因により性分化機構の過程のどこかに異常が存在する時に生じる. 女性の場合は, 遺伝や妊孕性の問題だけでなく, 性自認の混乱も生じ長期間にわたり苦悩する. そのため, 患者の性自認を含めた心理的な揺れが適応へと向かうプロセスを明らかにすることを研究目的とした.

対象は 25~50 歳代の病名告知を受けている DSD を伴う原発性無月経女性とし, セルフグループのリーダーまたは専門機関の医師を通じて参加者の募集をかけた. 自発的に参加表明をしてきた 25 歳以上の 20 名 (平均 33.6 歳) を研究参加者とした. インタビューデータは修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) を用いて継続的比較分析を行った. 研究参加者の疾患は, 完全型アンドロゲン不応症 10 名, 46, XY DSD 5 名, 部分型アンドロゲン不応症 1 名, 卵精巣性 DSD 1 名, 混合性性腺異形成 1 名, フレイジャー症候群 1 名, 46, XX DSD (子宮卵巣術後) 1 名であった. 性腺摘除術は 15 名が受けており, XY 染色体を 19/20 名が有していたが, 性自認は全員が女性であった.

分析の結果, 21 概念が生成された. そのうち 20 概念から 6 カテゴリー **【】** と 1 サブカテゴリー **《》**, カテゴリーと同等の説明力を持つ 1 概念 **◇** が生成された.

原発性無月経女性が, 体質を知ってから, その体質に囚われることなく生きていこうとするプロセスは「女性である確信を取り戻すプロセス」であった. 思春期以降に **【にじり寄る疑念】** が生じてくるが, 家族や医療者の何も教えてくれない態度から自ら尋ねることをも恐れ, 平静を装いながらも **【孤独さと混迷】** に陥っていく. 奮起し **【サポートリソースによる自分解明】** へ向かい, **《有能なリソース探求》** へと動き出す. ここで「良質な出会い」のサポートを得ることと, 社会生活において **【社会共生へのコントロール】** を図っていくことで, (現実の自己身体との共生) を続けながら **【異質感からの解放】** がなされ心身の折り合いへと向かっていくプロセスであった. DSD を伴う原発性無月経女性が, 体質に囚われることなく生きていく過程は「女性である確信を取り戻すプロセス」であ

り、ジェンダー・アイデンティティ再構築のためには告知の段階、および医療機関に訪れた時から適切で専門的な看護支援が必要であることが明らかとなった。

#### 審査結果の要旨

学位申請論文は、主査1名、副査2名の計3名で審査を行った。

#### 1. 保健学における研究の価値と貢献

本論文は、性分化疾患 (Disorders of sex development : DSD) で苦悩する人を対象としており、研究としての独創性と新規性が極めて高い。さらに対象者の実情と内面を捉えた研究方法を選択しており、内容の有効性、信頼性、分析の妥当性のいずれも秀でており、保健学（看護学分野）に貢献する優れた論文であると判断する。

#### 2. 論文構成と内容に関する審査

本論文は、I. 序論、II. 文献検討、III. 研究方法、IV. 結果、V. 考察、VI. 研究の限界、VII. 結論で構成されており、論文の趣旨を把握するために、これらの内容は十分に詳細に書かかれている。また、以下の点を全て満たしている。

- ・タイトルが、論文の趣旨を捉えており明解で簡潔である。
- ・目的と背景が、明解かつ簡潔に記されている。
- ・理論／方法が、正しく論理的であり、客観的に明解に記述されている。
- ・結果が、正当で、図、写真、表が適切であり、客観的・論理的に記述されている。
- ・考察が、正当で客観的・論理的であり、著者の主張や結論を支持するデータが十分である。
- ・結論が、目的に対応して適切に導かれており、記述が簡潔である。
- ・引用文献が、本文中に現れた順に適切に参照されている。
- ・表が、見やすく、数や表現が適切である。
- ・図、写真が、見やすく、数や表現が適切である。
- ・キャプションが、明解で適切である。
- ・書式が、適切である（誤字脱字がない、文体が統一されている、用語の適切性等。）

よって、論文構成およびその内容は学位論文としての要件を満たすものであると判断する。

#### 3. 総括

審査の結果、本論文は博士(保健学)の学位論文として十分な価値を有するものと考えられる。